

●地図編集室だより

平成23年度用地図帳

# 編集の新しい試みと 国土理解

## 日本のすがたを理解するために

このたびの改訂において、日本列島の「見わたす地図」(p.16~18)では、従来の考え方を大きく変え、地図の周囲に多くの付図を配置して海をつぶすことはせず、日本本土に焦点を合わせたレイアウトにしました。

そのおもな理由は、新しい学習指導要領により具体的に明記されている『日本の領土や近隣の国々の位置を理解する』という点を受けたためです。また、こうすることによって、日本列島の「地理的位置」や「日本の領土の範囲」「日本列島の形」などをきちんと捉えられることに改めて気づいたことも大きな動機となりました。

従前は、日本列島の地図からは日本列島の形や地形、位置関係を読みとる以外に、高速道路や鉄道など日本各地を結びつけている交通網が読みとれるため、「結びつき」という読図の視点も欠かすことのできない要素として位置づけてきました。そのため、「日本列島の地勢」とともに「人々の結びつき」についても積極的に

読みとれるよう、地図の周囲に「おもな鉄道」や「航空交通」などの資料図を配したページの構成をしてきました。

しかし、新しい学習指導要領では『周囲を海に囲まれた日本』と『日本の領土』『日本と近隣の国々との位置関係を理解する』という点がとくに強調されました。これを受け、本図から上記のような「交通」などの資料図をすべて取り去ることにしました。その結果、韓国や北朝鮮といった近隣諸国が思いがけず間近に位置していることや、領土問題にかかわる北方領土や竹島が日本列島のどこに位置しており、なぜ問題となっているのかが一目で理解できるようになりました。

p.14~15には南西諸島も同じ縮尺で掲載しています。となりあった席の児童同士にページを開かせて、図中の指示線にしたがってp.16~18とつなげると、日本列島の形とともに大陸とのかかわりがより一層際だって読みとることができるようでしょう。日本列島は北海道から南西諸島まできれいな弧を描いて連なっていること、近年注目を集めている尖閣諸島や大陸棚の開発について読みとれます。さらには、中国大陸が間近にあることに気づくことで、児童の国土認識はさらに広がるでしょう。(帝国書院編集部)



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.16~18